

飛州志

共拾

一

ル 4
5009
1



門 4
號 500p
卷 1

飛州志卷首

○緒歴

藤原忠宗 著

原夫東山道飛驒國ハ三郡七四郷四百十四村アリ凡口碑ニ傳フル処ハ南
北三十四里餘東西二十五里餘ニ及ヘリ國中絶テ平陸少ナク山連リ峯聳
ヘテ雲霧常ニ覆ヒ朝日遅ク出テ夕陽早ク没セリ間水周流シテ大河
多シ其激流ノ曉駛ナルニハ處トメ棧道ナラサルハナシ適其亂ニハ網ヲ浮
テ此方ヨリ彼方ノ岸ニ網ヲ張リ船ナル人ハ是ヲ手クリ船ナル人棹ニテ
航セリ他國ノ航橋ト同日ノ談ニハアラズ其外國ニ漕船無シ又通路ノ
險阻經歷ノ艱難至レリ盡セリ其樵跡ニ鳥モ不啼火耕ニ牛ノ助ケモ
ナシ其四境ハ美濃信濃越中加賀越前ノ五州ニ分リ猶其國々ニ
於テモ山奥ニ續キヌレハ隣州ト云ヘ凡遠國ニ等シク往來尤窘苦也
南東ニ御嶽野葦嶽山鷹山獄錫杖嶽笠嶽アリ北侯トイフ大山東



ヨリ北ニ覆ヒ白木峯金剛嶽三方崩ナント、跡スル嶽々哉ノ白山
マテ續キテ北西ニ遠レリ西南ノ間ハ河上山嶽ノミミテ土地碎カ如ク濃
州武儀郡ニ接シテ高嶽ナシトイヘモ道路狭窄ニシテ驛ヲ並フヘキ所稀
○允合國ノ石計古昔ハ二万八千石ナリト云天正年中金森立郎八郎
源長近後入道素玄
兵部卿法印此州ニ封セラレテ平均ニ治メ國ノ中央大野郡高山國
府ニ於テ天神山ノ古城跡ヲ再興シ旧地ノ外ニ二三ノ丸ヲ北方ニ倍セリ
改メテ高山ノ城ト号ス是ナリ夫ヨリ出雲守可重出雲守重頼長門
守頼直飛騨守頼業出雲守頼岩居之然ルニ元禄五年壬申 官命右
テ頼岩羽州上ノ山ノ城ニ移サル 其先長近飛州奉命天正丁壬子ヨリ頼岩得代
元禄五年壬申迄年数凡一百十餘年世数六代ナリ
其後同十年丁丑又濃州
郡上ノ城ニ移レリ自此此國官治ト成テ高山城ハ如賀宰相菅原綱紀ニ
命セラレ賀士交代シテ守ル迄四年同八年壬申ニ至レリ則同年城ヲ毀ル此時
州内ノ田島ノ經界ヲ正シクセシヲ濃州大垣ノ城主戸田米女正藤原氏定

都城增田ノ西家
御史記ニテラス
當時中領之
ハシ改メ高橋手
ノ内西家ナリ

命セラレ元禄七年甲戌ヨリ同八年乙亥迄家去テ遣シ戸籍ヲ改メ石計四
万四千一百五石ト成レリ元禄五年ヨリ今九年丙子迄伊奈半十郎源忠
篤 命ヲ奉レテ國務ヲ預リ高山ノ古墟ニ始メテ治所ヲ 經營シテ是ヲ
高山ノ廳邸ト云 通稱陣屋
或曰役所 同年ヨリ宝永六己丑年迄其子半九衛門忠須
同年ヨリ正徳四甲午年迄其嗣半九衛門忠遠同年ヨリ享保五庚子年迄
本孫山又九衛門藤原實道同年ヨリ同六年丑年迄都筑藤十郎藤原政直
増田太兵衛源備道 同年ヨリ同九年辰年迄龜田三郎共衛源三脩同年
ヨリ同十二年未年迄長谷川庄五郎藤原忠國皆其御代官ヲ奉セリ忠國
奉命之後故墟ノ外古宅等ノ跡ヲ田島ニ度尺シテ百六十二石餘増加フ
今ノ石計四万四千二百六十七石余ト成ル此時ニ合國人別男女僧俗
六万八千三百六十九人同戸數一萬一千九百九十一アリ並ニ座頭二百女
一百三十人織多ノ類二百八十二人 但座頭以下ノ類ハ國ニ生シ住スル所ノ其負
ヲ謝ス是國食ヲ不費カ為ニ此類ノモノ

無謂他州ヨリ来リ住スル者
ヲハ其首長タルモノ制止ス

牛馬ノ数七千四百十六匹也又人別外ニ地
没ト号シ官米ヲ食テ土著スル者八十四人各賜俸口数人々不同土地
山採ノ度ニ預リ合圍三十一箇所ノ番所ヲ交代シテ守ル同十二丁未
年ヨリ忠景奉リテ今年ニ至リ以徃ハ毎歲ノ秋治所ニ奉リテ年
稅ノ度ヲ治所ノ民ノ新ヲ聞ケリ然ルニ元文三戊午年始テ其地ニ居
任シ其治ヲ致スギノ旨官命アリテ自是在國ト成レリ

○凡此州人ハ山陰ノ氣ヲ禀タルニヤ男子タル者愚癡局狹ニシテ夏
物ノ上ニ於テ道理ヲ了別セサルト最多シ是等ヲアツメテ習俗ノ卑賤ヲナ
セリ余其不辨ヲ此ルニ氣質一偏ニ頑固ナルニモ止ラス竟地蓬ワレテ
物ニ遷惑セラレ易シ又山奥ノ民ハ極メテ偏固ナレ氏事物ノ道理ニ通
セサレハ増々甚シケレハ所謂強者ノ類ニモ非サル也婦女ノ休態敢テ他州
ニ異ナルト無シ其教戒ノ疎カナルハ此州ノニモ限ラス隣國ノ習俗ト

見エタリ桑蠶織紉ヲ第一ノ業トシ其餘ノ大業ヲハ男子ニ讓ルトイハレ
下賤ニ至リテハ又男子ノツトメニモ増レルナルヘシ

○凡此國ニ生ル男女僧俗他州ニ出テ其身ヲ立ルト云モ古今其例
稀ナリ土著ノ民増々多キニ知レタリ

○凡民ノ食物多ク麩麩食ニ至リテハ食物共見ヘス食ノ風味ニモアラ
子ト飢ヲ助ルニ餘リアリ器物ノ品衣服ノ制猶ソレトモ見難シ其冬
春ヲ遇スハ身ヲ窠ニシテ居リ故ニ日中ニ追ハサレハ炉邊ヲ去テ糞成
得ス山川村里ノ雪消サルノ間ハ其境モ分チ難ク積雪勁寒ニ制セ
ラレテ人ト物ト相アハレムヘキモノナリ毎暮春初復ニ至ラサレハ春ノ花開
ケス其開クルニ至テハ梅桃櫻ノ次第モナク皆盛リヲ一時ニセリ盛夏計
リハ暑氣至ツテ其代謝自見ユル凡且暮冷ヤカニ爽ナク餘國ニ異リ秋
冷ノ至ル又早シ自ラ次序ヲ逐テ葉ヲナス間ハ他州ノニモ比スルカ

ラス習テ性トナル故ニ業ヲ勵ムニ疎懶ナリ是氣候不順ナル制セラ
ル所以乎

○凡此国ノ山中ヨリ材木ヲ伐出スヲ号シテ木伐トイヒ杣取ト云フ
是ヲ河水ニ流シ行テ他国ニ出スヲ川下ト云ヒ川將トイヘリ皆民ノ勤
ムル業ニシテ材木板子樽木ニ等アリ又白木ト云フ一等アリ各古来
國産ノ甲ト称セリ

○凡往古ハ飛驒ノ匠或ハ匠ト云フモノアリテ帝都ニ在番セシ故ニ
番匠ノ名アリ又多ク他国ニ遊ヒテ飛驒匠ト呼ハレタリ今モ國中ニ木
匠多シ各昔ノ善匠ヲ諸傳ヘテ口實トスレバ其道統ヲ承得タル匠家モ
ナク今ハ伎術賤杣ナレハ他州ニモ遊ハヌ是中古國司ノ任絶ヘ國人私
ニ立レテ專トセシ時代ニ如斯ノ古實モ乱レヌト聞ヘリ故ニ匠法廢レ
テ損益ノ作用ヲ失ヒ強キモノハ飽ミ強カラシクテ欲シ削磨モノハ用

捨利害ノ了別ニ闇ク其毎ニ過不及アリテ國ノ費ヲナセリ其中ノ一ヲ
挙ルニ其使テ方木ハカリヲ用ヒテ方圓ニツラ交ヘ作ルヲ知ラサル也
其釘保スヘキモノヲ漆固ニスル耗アリ是久シキ匠ス々ニモ非ス國風
漸々移リ華美ヲ好ムノ心出テ終ニ物ニ飾リ眞ニ飾スルノ偽リヲ作リ生
セリ民ミツカテ是良匠ノ道廢ルト知ラス古法既ニ亡絶ス古ノ家作
ノ遺在ヲ觀シニ削ル処削ラヌ処ノ匠法アツテ妙術至巧其跡存而然
也夕トハ杣人ノ斧ニテ作り出シタルニテ使アリ又巧ノ新ニテ打ルヲ
用ユルアリ是鉋ノ次第多高ナレハ猶真性アリト見エ多然ルニ近年ハ
適其道勵ム後ナレトアリト見ユルモ國土旧ヨリ善匠老手ヲ産スル徳
澤存シテ然ラシムルモカ

○商賈ハ合國第一ノ業トセリ然ルニ中頃材岳時ノキシヨリ諸國
ノ商人数多此国ニ入 一時ニ諸材ヲ伐出セシカハサナカテ列嶽損

峰ヲ根ニセントス爰ニ於テオノツカラ俗風一變シ生民其利ニ趨リ
テ身上ノ榮枯地ヲ易ヘタリ既ニテ其更ニ傳メケハ在山ノ年數ニ
制限アリ殊ニハ國民永世ノタツキト成セシ材品モ此時ニ至ツテ悉ク
サントスルニ始テ驚キ是ヲ歎キ訴レハナリ今ノ如キハ山中ノ民ノミ
トス雜稅ニ充ル由富貴モカ故也

○凡天正ノ此迄ハ各立セシ諸將アリシヲ金壽法印奉命ノ後連ニ伐治メ
テ食邑トナセリ故ニ物理ニ解セサル本質野頑ノ民其饒敏ニ感化シ其
賊黨ヲ守リ名ト聞ケタリ然レモ未官治ノ寛宥ヲハ知ラサリシニ元祿
壬申年合國 官籍ニ收歸セシカハ又草業ノ始ニ復シ民風大ニ改リ又
是ヨリ郡吏 官命ヲ奉シテ政度ヲ國郡ニ敷ク其治処トシテ至ラスト
云フナク國土増々其澤ニ當リ四百八十餘石國元此ハ小計ト謂フ之
若自國ノ經濟ニ於テハ甚多キカ蓋中大ノ差別スル処内外ノ用捨ニアリ

初アラサルナシ克終リアルル鮮

○凡諸州ニ於テ郡吏ノ預ル地ヲ御料所御代官所ト云下民ハ御由也凡
稱セリ古昔ハ諸州ノ政所奉行所關吏等モ各其官所ニ接スル地ヲ預リテ
郡吏ノ制度ヲ兼ヌ故ニ祿大ナルモ預リ少ナルモ是ヲ役ストイヘ凡其大ナルハ
司ル任アツテ他政度ノ私ヲ亂シ年稅ヲ得夫ヲ支斷セシト也然レモ此
更止ニテ今ハナニ是等治乱ノ用捨ニ依リテ或ハ官治ノ法改リテ所以
乎今諸州 太吏官治ノ地ヲ預ル 命モ今郡吏ノ數ニ備リテ其跡ヲ行フ誠
ニ其職ヲ辱ウスルハ太平ノ露沢也元來祿微ニ任重ク備少ク更ニ後者
ノ在書數ヲ能トシ其役ニ預リ隨フ共唯昇步ヲ健ニシテ能物ニラシムル
ヲ其更ニ欽奉スト思フ而已也然レ不器ハ愧ヘシ徒ニ先死セヨリハ上治
所ノ末申ヲ擧テ此一巻ヲ述フ次ニ 古今ノ説話間里ノ習俗寺祠
ノ存亡更物ノ變異等ヲ掌編セリ若シタキカ中ニトルアラハ生民

風ヲウツシ俗ヲ易ハ古今ヲ知ルノ便トシテカ第ニ其謗劣ヲ心レテ間愚案ヲ
加フトイハ正其討尋ヲ未究メス聊志ニ備フルノ村冊ト成レリ猶博雅ノ君
子重テ神シ夏ヲ乞フ 于時延享乙丑年飛驒國於高山治所書

○凡例

此書ハツトメテ當國ノ夏ヲ要トスルハ他州ノ汝汝ヲ議スルニ及ハス然レテ去ハカラ
カルノ類ハ併セ論セリ

新古史書諸家ノ記録諸類鏡冊勅撰家集古人ノ行卷詩文章等此國ノ夏
ニ據レルモノハ文詞ヲ摘テ載ス

本土所在ノ記録佛像經卷ノ後書採文鐘銘等文詞ノ出キヲ論セテ得ルニ
マカセテ國説カ言フ處ニ從テ載ス

引用ノ書同本トイハ正若兩説ヲ得ルモノ即ニ議ヲ載ス又廣ク印板ニ非ザル書
ハ其出所ヲ記ス

飛州志總標目

- 卷第一 土地部
- 卷第二 國法部
- 卷第三 神祠部
- 卷第四 寺院部
- 卷第五 寺院部
- 卷第六 古城跡部
- 卷第七 舊記部
- 卷第八 諸雜部
- 卷第九 祥瑞部
- 卷第十 附錄古記

人夏 踏歌 食物 諸品 諸説
温改

引用書目

日本記
延喜式
古事記
舊事記
續日本記
三代實錄
大八洲記
山槐記
公事根源集釋
萬葉和歌集
和名類聚錄

一宮記
諸神根源集
神社日本後記
日吉記
中臣拔
大和姬世記
兩部習合
今在記
諸社記
鎮座記
神名秘釋

東鑑
藤原系圖
緒氏大系圖
元三大師化緣募疏
河原愚案抄
愈愚隨筆
温古要集
玉葉集
新撰六帖
藤原系圖
雪玉和歌集

拾遺和歌集
基俊家集
正治百首和歌
堀川院覽書合
永正和歌結題
卓懷集
枕草子春曙抄
徒然草文段抄
和歌八重垣
竟惠北國紀行
梅花無盡藏
今昔物語

豐原卜定記
神代卷抄
日吉密記
曆書
古曆
長曆
神社考
神社啟蒙
沙石集
珍海已講菩提心集
佛祖宗派圖
正法宗派圖

碧五和歌集
太平記
續太平記
平家物語
保元平治
平治物語
梅松論
茂家補任
甲陽軍鑑
參河後風土記
鎌倉實記
日本古今治亂記

庭訓集	前妙心俊明寂錄	印本人國記
新猿樂記	羅山文集	寫本人國記
本朝語園	扶桑名勝詩集	日本鹿子
三壺聞書	花押藪	國名風土記
駿臺雜話	倭廣三才圖會	國華萬葉集
廣益俗說辨	會津風土記	隱岐ノスサ
本阿弥家説	陸奥各所集	常陸國志

通計九十部

飛州志 卷第一 土地部 目錄

國名
 郡名 英名數附 古今之變異
 郷名 英名數附 所屬之郷名
 村里之物數 英名村小名
 庄名 有無
 田野物數量 英一郡之接屬
 名所位山ノ中ノ橋細紅爾布川 附淺水朝日
 用渡航地名
 川之名稱 附瀧觸
 山

嶺 峯

嶽

土之性稟

石之性品

食肉物之名 不食草之名 附國名

牛馬不食草名 附國名

木之名 附國名

竹之名 附國名

食用之菓實草木嫩葉菌之名 不食菌之名

食用之鳥之名 不食鳥之名

食用之獸之名 不食獸之名

魚之名

食用之蟲之名 不食蟲之名

菜穀種子名品

種藝收藏時候名 田島花類

一夫可耕之大數

害五穀菜蔬蟲類 於菜穀捕毒蟲之類

水碓磨

橋梁之制

溫泉

飛州志卷第一 土地部

○國名

飛驒

仁德

斐太

萬葉和歌集

斐陀

日本書記

卑田

先代舊事本紀神社本紀

比太

和名類聚

飛駄

國名風土記

飛驒

和漢文圖會

按文凡三各國字

ノ異也猶諸書ノ大旨ヲ載ス

○大八洲記曰ノ東仙道八國民部

式曰近江美濃為近國飛驒信濃為中國上野下野陸奥出羽為

遠國 比太國管郡三 和名抄曰比太國存在大野郡 民部或曰山深

而材木多致貢柴世則多鹽味布也五穀不熟下下國也 ○倭漢三

圖會卷第三曰飛驒國四郡三万八千七百六十四石餘 東仙道 大原府

益田荒城天野 本為三郡今如 ○風土記曰此國本美濃內也往古州

大津造王宮時自此郡自良材多出而負馬駄者其速如飛因改稱飛

駄國高山

東至江戸百十里内十九里當國之内下原境也同東仙道八十六里内十三里當國之内日和田境也自高山子至信州松本二十里才押至信州上田十九里半亥子至越中

○國名風土記曰飛騨國トハ地神ハ美濃内也然ルニ

近江ノ大津ニ城ヲ建テシ時材木ヲエラシニ美濃國ヨリ參リタリシ
大子申テ云ク彼國ノ境ナル松ソヨキナル節モトキ用木多キ所ナシ彼ヨ
リ宮木ヲ召集サセ給フヘキモノヲト申ス然ラハ夫ヨリ材木ヲ取出サセ
大津ノ馬トモニテ數万駄ヲ運ハセ給ヘハ飛カ如クニ參ルトテサマ飛騨
ト号シ給フ改ニ私人才道等ヲモ飛騨人ト号ス官木ノ名所ナシトテ
ヲ下ナル其山ヲ佐山ト号スル也以上按スルニ國華萬葉集等ノ説モ
是ニ同シ國會ノ大津ノ王宮風土記ノ大津ノ城共ニ王宮也是人皇元
九代天智帝ノ御宇近江大津ニ都ヲ建テシトナルシ松人トハ凡テ木
ヲ伐出スラ業トスル者也今モ和泉ノ松木曾ノ松ト云フカ如シ木道ハ木道
也飛騨匠也猶佐山ノ説ハ名所ノ條下ニ載ス

○郡并名數及テ変異

三代實録曰貞觀十二年十一月八日乙酉今飛騨國大野郡為兩郡
大野大原益田荒城○延喜式又倭名類聚抄等 天野益田荒城

○大八州記曰大野於保乃益田乃之夕荒城阿良木○和漢三才圖會

又日本鹿子等 大原府 益田荒城天野○續太平記大原益田大野

荒城 ○今世稱シ来ル所ニ郡益田大野吉城是也 按スルニ天野大原

ノ二郡今ハ廢セリ又古書ニ富安郡ト載ルモノアリ博ク諸書ヲ考ルニ未

見是富安郡ヲ誤リ記スルモノ歟吉城郡保村憶念寺 本尊裡書ニアリ 或ハ東鑑ニ飛州

荒木郷ト出ルリ州内ノ古書ニモ荒木郡吉木郡ト記セシモノアリ然レハ

水ヲ用シ時モ有ケルニヤ又里民説 古昔荒城郡ノ主タル人城荒ルト

云文字ヲ忌テ吉城ト改メケルト云フ然レ是等ハ俗説ノ甚キト謂フヘシ

右城築陳宮ノ法ニ於テ惡名ノ地ヲ除ク其謂レナキニ非ス太平記ニ

觀應二年之月三日將軍下播州光明寺ノ城ヲ攻ルル引尾ニ敗取師直
ハ彦尾ニ降取テ其軍利ナカリシト見ユル

○郷名數附所廢之郷名

今所存之郷名二十四數アリ ○益田郡 下原郷 馬瀬郷 竹野郷 中坂郷
阿多野郷 荻原郷 小府 上呂郷 中呂郷 下呂郷 大野郡 河内郷 久野
郡 川上郷 小島郷 白川郷 澁郷 国府 大八賀郷 小賀郷 三枝郷 土敷郡
古川郷 小府 廣瀬郷 吉城郷 小島郷 小倉郷 利郷 高原郷 以上又所廢之
郷名下ニ載ス但シ是ニ不可限詳ナルニ及ス ○麻生郷 廢今益田郡 夏
燒村 白山祠藏大般若經後書曰 應永九三年願主益田郡 麻生郷
○上江郷 中江郷 下江郷 廢今益田郡 上呂郷 中呂郷 下呂郷 旧稱ナ
ト云同郡 中呂村 禪昌寺藏大般若經後書云 應永十一年益田郡 中江野
郷 據スルニ是中江郷ナリ ○德永郷 廢 大野郡 冬野村 東寺藏本尊
郷 據スルニ是中江郷ナリ ○德永郷 廢 大野郡 冬野村 東寺藏本尊

裡書云 永正十一年大野郡 德永郷 ○山口郷 廢 大野郡 山口村 了心寺
本尊 裡書云 永正十五年大野郡 山崎郷 ○一宮郷 廢 大野郡 宮村 一宮
祠 慶長十三年ノ棟札ニ載テアリ ○富安郷 廢 多古書ニ載テアリ

○村里之總數并枝村ノ名

今所存一國ノ村數四百十四村也 其古數ハ多明ナラス 元應年中檢地之
時改正セラレテ載ル所是之 ○枝村ト云ソハ村里毎ニアルニハ非ス 一村ノ地
續或ハ山間窪地ノ陽名ノ地ニ別名ヲ稱シテ本村ニ附屬スルモノ也 今世何村
新田ト云一例也 故ニ本村ニ等シク民家連束ヒアリ 又人家廢シテ今ハ地
名ノミナルモアルト云 ○中名ト云フハ多ク民ノ宅地ニ附タル号也 今某ノ地名或
ハ田島ノ字ト云フニモ非ス タトハ往古鑑治ノ在セシ地ハ今ノ民其舊目ニ
非ス 其職ニ與カラス 氏數治ノ向某ト呼ヘリ 異名ノ類ト謂フキ也

○庄名有無

本エ凡テ御名ヲ稱シ古今テ庄号ヲ無シト云ヘリ然ルニ大野郡八日所村我
聲寺本尊裡書ニ大野郡川上庄トアリ疑フテクハ誤ナラシ此一寺ノミ
シテ其餘悉ク川上御ト出ス

○田野總數量附一郡之接屬

今世一國ノ總數量四万四千貳百六十七石餘戸詔○益田郡ハ九郷
二百村七千七百拾石貳升一合三千百三十餘戸一萬六千九百六十餘人也
州内ノ東南ニシテ美濃信濃ノ兩州ニ接ス御嶽驛鞍カ嶺川上カ嶺
アリ州内ニ於テハ寒氣弱シ是濃州ニ接スルカ故也然レモ彼州ノ暖和ニ
ハ不度猶御嶽驛鞍カ嶺ニ至リテハ寒冷霜雪カモ甚シク名所アリ
ムツノ橋此郡中ニアリ ○大野郡ハ九郷一百三十六村二万七千四十一石
五千二百六合五千貳百餘戸二万六千三百九十餘人也州内ノ中央ニシテ
國府ヲ高山上ト云フ中央ト云ヘ凡西方ハ長シ美濃故前加賀郡中信濃

五州ニ接ス驛鞍カ山嶺川上カ嶺ニ三方山カ嶺十二カ嶺號驛鞍後摺嶽嶽カ
嶺大日カ嶺アリテ加賀ノ白山モ是ニ續キ立リ寒氣霜雪ヲ益田郡ヨリハ
強シ名所位山此郡中ニアリ ○吉城郡ハ六郷一百七十八村二万九千五百
十五石五斗五升四合四千九百九十餘戸二万三千八百貳十餘人也州内ノ
西北方寄リテ東北西ニ周シ信濃郡中ノ二州ニ接ス驛鞍嶽嶽カ嶺嶺
黃カ嶺登カ嶺中ノ俣カ嶺北ノ俣カ嶺南中カ嶺白山カ嶺金剛カ嶺白
木カ嶺アリテ嚴寒深雪ノ地ナリ州内ニ於テモ下山中ト云イ奥飛
騨ト云也名所細江此郡中ニアリ

○名所位山細江アサムツノ橋爾布川

本エ於テ名所ト稱スルモノハ各古書ニ出テ証歎アルモノヲ載ス猶詳
ナルハ不及

○位山ハ大野郡久々野郷山ノ村ニアリ國説ニ云ク往古ヨリ此山

標一名イナ井ヲ以テ土産ノ珍トセリ是上古御芳ノ料トシテ高都
 ニ進奏セシ時賜爵アツテイナノ木ト稱セラレ山ヲ位山ト号ス
又此山中ニ長者屋 兼由未詳 按スルニ國號ニ云處ノ上古御芳進奏
鋪ト云地跡アリ ノ年代未分明近クハ元和ノ朝ニ進奏ノアツテ此賜中絶ノ例ヲ
 再興シ 天氣奇特ニ思食ノ古女房ノ奉書傳奏廣橋内府兼勝
 ノ副翰アリ今世一宮水無神社ノ寶庫ニ秘在セリ 女房ノ奉書兼勝ノ副翰又詞ハ
水無神社ノ條下ニ出不 則此文詞ニ中絶ノ例ヲ再興ストアレハ後古モ進奏アリ
 此ト聞ヘリ俟見ルヘシ又此州山國ナレハ其地所多ク山澗ニアリ
 故ニ余其地毎ニ石ヲ立テ名目ヲ彫誌シテ後人ノ見ヤスルヘキ為ニ備フ

位山

欽差郡吏長谷川庄五郎藤原忠宗之
 享保萬年之第十三撰歲在戊申九月十日

雪玉和歌集ニ云ク 飛驒ノ國司ニテ基細郷クラ井山ノイナノ木
 フ笏ノレウニホセラレシ片 位山峯ノカキマテ我コエシニチラハ君ガ
年ニトリテ見ヨ 基細ノ事實ハ古城部吉城郡 碧玉和歌集ニ曰基
松壽村小島ノ城ノ條下ニ出 細郷納言昇進ノ年月申侍ルリコト飛州下向ノ侍ハ重テ
 上洛ノ片執許アルハキヨレ執約ノ處ニ所勞危急ノ由詮進ニヨツテ執許
 アリシカハ息中將濟繼ノ許ヘヨシテツカハシ侍ル 老ノ坂ヲホウカナクモ
 位山ヨリシヤ、スキ明出ナルヲ返シ濟繼郷中將 老坂上リテ越シ
 位山マツメクミアル道ノカシコキ 凡テ位山ノ和歌ハ 老惠法師北國記
多シトイハレ居之 行ニ云クカクテ明ル年ノ十八ノサ月ノ末ニ飛驒ノ山路ヲシノキアツマ

ノ方一ヲモムキ侍リ又仙山ヲ見ルニ千峯萬山カサナリテイツコラカ
 キリ厄知ラス 梢吹嵐モタカキ 佐山檜原ノモトニカル白雲 下略
 ○舊ノアサムツノ橋跡ハ同郡上呂郷尾崎村ニアリ 因説ニ云ク古昔ノ
 アサムツノ橋跡ハ今ノ尾崎ノ濟ニテ益田川ヲ横ワタシスル所也是ヲ
 濟テ往來スルヲ今モ佐山通りト云古ノ本道也今ノ本道少坂通りハ
 天正ノ頃山溪ヲ開キ少坂ノ谷川ニ橋ヲカケテ舊号ヲ稱シテアサムツノ
 橋ト云イ少坂ノ橋トモ唱ヘリ 按スルニアサムツノ跡ヲ補スル尾崎ノ
 濟モ里民ノ口碑ニ傳フルノミニテサタカナラサリシ處ニハカラサルニ
 元文更申ノ秋八月益田川洪水ニテ此形濟スル岸深ク破レタル其
 地中ヨリ古ノ臺木ニ木顯レ出タリ故ニ今ク古橋ノ跡ト云フヲ知リ又
 其本性ハ樽ノ大木也周リハ朽スレ厄中真ハ損セヌ則チ元ノ如ク出中ニ理
 ンタリ 又竟惠ノ記行ニ佐山細江ハアリテアサムツノ跡ニ既ニ其頃ニ廢
 セシモノカ

終 古
 あらび川の橋跡

新差郡吏長谷川庄五郎藤原忠宗立
 享保萬年之第十三禊歲在戊申九月六日

梁塵愚按抄卷之下催馬樂歌云 アサムツノハシノト、ロトノコト、フリ
 シ雨ノフリシワレラタレソコノナカヒトタニ入シモトノカタチ セラソコ
 トムラヒニクルヤ サキンタチヤ 愚按アサムツノ橋ハ飛驒ニモ越前
 ニモアル各野也ト、ロハ橋ノ板ヲフミナラスヲ云フリニシワレトイハシタ
 メ兩ト云又字ヲクハハタリナカ人タテ、ハ中人ヲクツル也ニモトハ

御許也カタチハ貌也人ヲカシツク詞也セウソコハ消息也文ニテモタ、
ヲトツル、ヲモセウソコト云也サキンタチハ公達也心ワ年フリクルワレラ
シラスシテ媒阿ヲタノシキンタチノトムライセウソコスルト也愚按抄ハ
作ナ枕草子春曙披卷之三云ハシハアサムツノ橋註ニ云催馬
禦云淺水トアリ愚按抄ニ飛驒ニモ越前ニモ名所ニ入ト云云
或記云ク催馬御後水曲ハアサシスニハ流スアサシツ也トソ國記ノ
和歌讀人未考

コトツテノ人ノ心ノアヤフサニフシタニモニスアサムツノハシ
アサムツノ橋ハシツカニワタレトモト、ロト、ロトナルリ他シキ
和漢三才圖會曰越前國麻生津橋又ノ名黒戸橋在府中福井間此
處在江名五江國華萬葉集曰越前國淺水橋黒戸橋世俗ニアサ
フ津ト云所也此所ヨリ福井ハ二里朝水ノシロ戸ノ橋ト雪ヲヨメリ

朝水ト云所ニ江川アリ是ヲ五江ト云ト云ヘリ

○今所在之アサムツノ橋、昔郡中坂郷小坂村ニアリ國記ニ云リ
是ヲ中坂通ト号シテ今ノ本道ナリ棧道ニ作ル凡縦十三丈
横一丈四尺

于
今 あさむつ川の橋

欽差郡吏長谷川庄五郎藤原忠崇立
享保萬年之第十三禊歲在戊申九月廿八日

今俗アサムツノ如キニ所兩説アルモノハ終古于今ノ文字ヲ加ヘテ云
○細江ハ吉城郡小島郷太江村ニアリ國記ニ云ク澁鯨同郷柏

原村ノ山澗ヨリ流レ出テ 大江杉寄ノ兩村ヲ周リ官川ニ入レリ今
ノ俗細江川ト稱シテ掲テ流ル淺流ナリ昔婦ヲ路中納言基綱卿
飛驒ノ國司ニテ 任五ヒタル由爲ノ城跡モ此杉崎村ニアリ彼卿ノ家
集ニ細江漁叟トアルモ竹故ナルヲ萬葉和歌集白奇物田原歌作者
不知 白檀變太乃細江之菅鳥乃婦示寤或寢宿金鶴
按スルニ白檀市動レテマユヒヒタトツ、キタルハ必ス檀ノ木ニカハル
トニハアラサルカ此州ニ於テマユヒニ品アリテ大檀是大本ト小
檀是ハ大本トナラヌト云性ハ各強堅ニテ其色ハ白シ若白檀トモ云ルカ未
詳又菅鳥妙州ニ於テ知レル人ナシホツ江ノスカ鳥トツ、キテイヲ子
カ子ツルト云ハ水邊ニタヨルモノ夜モ声アル鳥カ今實ニ任公鳥アリテ
是ヲカヤヅリト云出喉鳥ノ種類ナリヌカトリモ此夕クイナラフ
モノニヤ

細江

欽差郡吏長谷川庄五郎藤原忠崇立
享保萬年之第十三禊歲在戊申七月廿八日

碧玉和歌集曰 文龜三年四月廿三日故婦ヲ路中納言基綱卿ニ回
ヨミテツカハシケル各号ノ和歌於飛驒州古川郡去去年辛子公
秋ヲヘシ影ヲモトメ又月ハウシホソ江ノ水ニ雲カクレシテ 各号六
是第ニノ和哥
ナリ也畧之 竟惠法師北國紀行日各聞ク細江ノ方ヲ遙ニ見
ヤリテ 峯ヨ元月モウラ又夏山ヤヒタノ細江ノ夕暮ノ空

立山ノフモトラ過テ越中ノ州ニウツリ侍リ又菟惠ハ和哥所亮
孝法師ノ門人也

○爾布川ハ所_ニ在_ニ未_ニ島_ニ萬葉和歌歌集曰

斐太人之真木流云爾布乃川事者雖通船曾難通 日本鹿子

國華萬葉集和漢三才圖會等ニモ飛州名所示布川ヲ載ス

按スルニ本土ニ於テ其一河ノ口ニハ飛サレモ古今布川森スルア

リ是山國ノ習河中ニ岩石多クスヘテ激流ナルニ真岩石少クシテ流

水平ヲカナル所ヲハ布川ト呼ンテサナカラ右ヲ引ワケタル如シト云フ

心ナリト云ヘル俗言也板ヲ引渡シタル橋ヲモ布橋ナリト
云ヘリ是又同レコトナリ然ルニ今モ村

里ニテ用ル所ノ真木ハ山中ニ伐出スラ業トシテ各谷川ニ入レテ流

ノ大河ニ流シ来リ彼布川ト呼ヒ静ナル所ニテ河中ニ石ヲ並ヘテ

河水ヲ二流ト成シテ人家ニタヨリ宜キ方ノ一流ニ真木ヲ流シモテ行

陸ニ揚ル也於茲ハ布川ニ流アレハ若是ヲラニ布川モ云ハシカ

斐太人ノ真木流云トアレハ今モ流シ来ル業ハ同シ船ノ通用ナケレ

ハ事ハ通ヘト船ソカヨハストアルモ古今ノ通言也又大和撰津ニモ同

稱アリテ丹生ニ作ル其大和ナルハ各所ニシテ和哥アリト聞ヘリ

○淺水原所在未島 日本鹿子國華萬葉集和漢三才圖會等ニ

飛州名所部ニ載ス

○朝日原所在未島 日本鹿子國華萬葉集和漢三才圖會等ニ

飛州名所部ニ載ス 按スルニ足置郡羽根村ニ朝日平ト云処アリ是ナ

ルキモノニヤ

○用渡航地名

本土ニ於テ船ヲ用ルハ他州ノ渡船ト曰フ同クシテ詔ルハカラス凡テ山

澗ノ激流ナルカ故ニ兩岸ヨリ水上ニ網ヲ張リ直シ是ヲ各ヨリ掉ヲ濟シ

ル處ノヨコワタシナリ他皆如此 ○下原濟益田郡下原郷渡村在

自是濃州武儀郡金山町ニ到ル ○中津原濟 同郡同郷中津原
村ニアリ同郷下原町ニ到ル ○瀬戸濟 同郡瀬戸村ニアリ同郷并佐
村ニ到ル ○尾崎濟 同郡上呂郷尾善村ニアリ同郷上呂村ニ到ル
是往古ノアサウツノ橋ノ跡也 表田名所ノ部ニ出ス ○少箇野濟
同郡下呂郷少箇野村ニアリ同郷森村ニ到ル ○三河原濟 吉
城郡小鷹利郷三河原村ニアリ同郡小鷹丸山村ニ到ル ○古河濟
同郡古川郷古川町ニアリ同郷高野村ニ到ル

○川之名附濫觴

本土モトヨリ溪澗ノ流レ多シト云ヘ凡南ハ益田川北ハ宮川ノ二流也
其餘ノ川ニハ其山澗ヲ周ル暫時ノ名ニシテ或ハ益田川ニ入リ或ハ宮
川ニ入リ然レモ古未稱スル処ノ号アルモノハ茲ニ載ス他外ニモ村里每
ニ中流アリトイヘ凡各名モサタカナラス通稱小谷ト云イ谷川凡云也

法皇合ニ河合
編ニ濫觴

○益田川 南方ノ大河長流タリ濫觴益田郡阿多郷野麥村下
同郡下原郷渡村ニ至リ自是濃州武儀郡ニ流行テ武儀加茂ハ
兩郡ニ於テハ飛驒川ト云ヘリ加茂郡ノ落合ト云処ニテ信州ノ木曾
川ト一流ト成ル自是中仙道大田川ト稱セリ ○秋上川濫觴同郡
同郷胡桃嶋村也同郷黒川村ニ至リテ益田川ニ入ル ○竹原川 濫觴
同郡竹原郷御所郷村也同郷小川村ニ至リテ益田川ニ入ル ○馬瀬
川濫觴大野郡川上郷楠谷村也益田郡下原郷渡村ニ至リテ益田
川ニ入ル ○無数河川濫觴同郡久野郷無数河村也同村ニカイト
益田川ニ入ル ○山口川 濫觴同郡同郷山台村也益田郡尾崎
村ニ至リテ益田川ニ入ル ○小坂川濫觴大野郡大八賀郷大洞村也
益田郡落合村ニテ益田川ニ入ル ○宮川 北方ノ大河長流タリ濫觴
同郡久久野郷宮村也大野吉城ノ兩郡ヲ流行テ越中國郷貞郡ニ

白川
奇川
海入

至ッテ神通川ト稱スルモ是也 ○大八賀川 濫觴同郡大八賀郷
岩井谷村也同郡松本村ニ至リテ宮川ニ入ル ○小八賀川 濫觴同
郡同郡池俣村也同郡三河村ニ至リテ宮川ニ入ル ○葦海苔川
濫觴同郡灘郡西一色村也同郡本母村ニ至リテ宮川ニ入ル ○江名
川 濫觴同郡同郡江名子村也同郡高山町ニ至リテ宮川ニ入ル ○十鳥
川 濫觴同郡山鳥郷十鳥村也吉城郡角川村ニ至リテ宮川ニ入ル ○河上
川 濫觴同郡川上郷中野村同郡下切村ニ至リテ宮川ニ入ル ○白川
濫觴同郡白川郷三尾河村也越中國ニ至リテ神通川ニ入ル ○吉城川
濫觴吉城郡吉城郷折敷地村也同郡古川町ニ至リテ宮川ニ入ル ○双六
川 濫觴同郡高原郷金木戸村也同郡中山村ニ至リテ高原川ニ入ル
○高原川 濫觴同郡同郷平湯村也越中國姉負郡ニ至リテ蟹寺川ニ
○山

本エニ於テ村里ニ稱スル処ノ山ノ名甚多シト雖載テ所用ナレ仍畧之
○嶺 峠

○猪ノ鼻峠 益田郡阿多野郷赤生谷村猪鼻村間也 ○日留峠 阿多野郷
日留村ニアリ ○権現峠 中洞村ニアリ ○野麥峠 野麥村ニアリ 信州奥也 ○長棟
峠 山日留村ニアリ 信州奥也 ○右道峠 久須母村ニアリ ○初屋峠
下呂郷少川村ニアリ ○鉤鐘峠 門原村ニアリ ○傳坂峠 上呂郷尾崎
村ニアリ ○柵峠 馬瀬郷下山ニアリ ○美女峠 大野郡大八賀郷
山口村ニアリ ○三福寺峠 三福寺村ニアリ ○栗島峠 塩屋村ニアリ
○大直峠 小八賀郷大萱村ニアリ ○久手峠 惠比須峠 久手村ニ在
○宮峠 荏安峠 大楠峠 久野郷宮村ニアリ ○小鳥峠 川上郷我
ヶ洞村ニアリ ○龍ヶ峯峠 麥嶋峠 樞谷村ニアリ ○有巢峠 有巢
村ニアリ ○烏峠 前原村ニアリ ○七曲峠 灘郷江名子村ニアリ

○鳥峠前原村ニアリ ○輕岡峠 松木峠 白川郡六概村ニアリ
 ○名伏峠 森茂村ニアリ ○野谷峠 野谷村ニアリ ○卒都婆峠 飯嶋
 村ニアリ ○折戸峠 長瀬村ニアリ ○尾上郷峠 海上村ニアリ ○打越峠 小
 白川村ニアリ ○松木峠 小島郷 小島村ニアリ ○瓜巢峠 吉城郡廣
 瀬郷 瓜巢村ニアリ ○今洞峠 上廣瀬村ニアリ ○大坂峠 八日町村ニアリ
 ○二本坊峠 栢原ニアリ ○折敷地峠 惠比須峠 駒ヶ鼻峠 折敷地村ニ
 アリ ○舊峠 古川郡 宇津江村ニアリ ○倉谷峠 小島郷 丸山村ニアリ
 ○平陽峠 高原郷 平陽村ニアリ ○船峠 大多和村ニアリ ○伊西峠 伊
 西村ニアリ ○鳥屋峠 嵐峯村 井ノ子峠 信村ニアリ ○橋峠 屋村 天全峠 鷹利郷 天全村
 ○嶽 ○文道寺 峠 三河原村ニアリ ○巖峠 大村ニアリ ○保峠 保村ニアリ
 ○栢坂峠 益富郡 下原郷 下野村ニアリ ○牟佐峠 同郡 下野郷 牟佐村ニアリ
 本土ニ於テ嶽ノ号アルモノヲノス 其秀タル嶽ハ方角ヲ記セリ 猶國
 界ノ涉汰ニ至リテハ 古来口碑ニ傳フル處ヲ用テ各效此 ○御嶽 高

山國府ヨリ 丑寅ニ當ル 益田郡 阿多野郷 日和田村 胡桃郷 村 同郡 小坂郷 落合
 村ノ山々是ニ接ス 後ハ 信州也 世俗木曾ノ御嶽ト稱ス 是也 ○日見嶽
 同郡 榑島村ニアリ ○騎鞍岳 高山國府ヨリ 辰ニ當ル 同郡 阿多野郷 阿多野
 郷 村野 麥村 大野郡 小八賀郷 池俣村 岩井村 吉城郡 高原郷 平陽村 等ノ
 山々此岳ニ接ス 後ハ 信州ノ界也 ○二俣嶽 益田郡 下原 和佐村ニアリ
 ○川上嶽 高山國府ヨリ 未ニ當ル 大野郡 川上郷 大原村 久々野郷 山口村
 宮村 等ノ山々是ニ接ス ○十二嶽 同郡 小八賀郷 大萱村ニアリ
 ○三方崩嶽 高山國府ヨリ 酉戌ニ當ル 同郡 白川郡 馬將村 飯嶋村 加須
 良村ニ接ス ○笈摺嶽 同郡 同郷 加須良村ニアリ ○鷲嶽 同郡 一色村 在
 ○大日嶽 高砂嶽 四海波嶽 同郡 尾上村ニアリ ○鎗ヶ嶽 高山
 國府ヨリ 寅ニ當ル 吉城郡 高原郷 神坂村ニアリ 後 信州ナリ ○錫杖嶽 益富
 小鷹嶽 白木嶽 以上 鎗ヶ嶽ニ接ス ○硫黃嶽 高山國府ヨリ 寅ニ

アタル同郷中尾村ニアリ後ハ信州也 ○笠嶽 中俣嶽 高山國府ヨリ
丑寅ニ當ル同郷金布村ニアリ後地未分明 徳子嶽 笠嶽ニ接セリ
○北俣嶽 高山國府ヨリ子丑ニ當ル同郷打保村ニアリ ○漆山嶽同郷
漆山村ニアリ ○白山嶽同郷平湯村ニアリ ○金剛嶽同郷ニッ屋村ニ
アリ後ハ越中州也 ○金山岳是騎鞞嶽ニ接ストイヘモ其地未分明

○土之性

本土ハ總テ土ノ性瘠瘠ニシテ底下ハ大ノ破石多シ故ニ其性乾キヤスシ
○垣土 國名山島真土ト稱セリ田島トモ是ヲ以テ極品トス其色赤多シ
他ノ者リハ是重ナル者也 ○聖土 中品トス田地ニ多シ ○破土 中品也田島
モ是多シタトハ土一分破ニ分アルカ如シト可謂 ○壩土 下品トス國名ク
ロホクトイフ也田島トモ多シ ○積土 下品也白島地ニ多シ ○黄土 赤土
白土以上三品山間ニ多シ久其性極ク灰ノ如キモノアリ但シ黄土ト赤土ハ

家屋ノ壁土ニ用ル也 ○キラエ山間ニアリ 其色白クシカモ光リアリ彩色ニ
用ル処ノ雪母ニ似タル故ニ此名アルカ

○石之性

○山石 山川村里ニアリ大石多シ ○川石 山間ニ多シ國用ノ石臼等ニ作レリ
○青石 山川ニ多シ大石アリ色至テ青シ其性滑利ナルアリノ縣懸ナルアリ
○赤石 山川ニアリ色至テ赤シ性堅シ大石ニアラス ○黒石 吉城郡吉城
川ニアリ其色至テ黒シ山石也國人多シ血石等ニ用ル ○松倉石 大野郡松
倉山ニアリ滑利ニシテ板ノ如クケルナリ大石モアリ ○砥石 山川ニアリ他
州ニテ荒砥石屬ト云類ナリ適ハ細密ナルモノアリ ○和田石 大坂石以上高
嶽石也 吉城郡ニアリ ○豆ノ粉石 村里ニ多シ至テ山石ノ性牙至シテ土ノ如シ
○ロカン石 大野郡根方村吉城郡大江村ニアリ其性未詳 ○寒水石 大
野郡尾上川第ニアリ其色白ク水晶ノ如シ是ヲ碎クニ大巾トナク比皆方石

垣氏カキ 夕氏カモウリ 西氏スイク 南氏ミナミ 長茄子チヨロキ
團茄子ダンシ 夕顔タシ 蓋蓋ナガエカ 圓夕顔マダラ 草石天蚕クサシ
シニキリ 夕タシ ヨシナ トウキキ

○不食草之名

日出草アサシラ 燕子花アサギ 水劍草マダラ 雞冠花トウキキ 田市艸タシ
望スモリ トキノ木人參トキノキ 草薺クサノハ 万年艸マンネン 芍薬シヤク
山芍薬ヤマシヤク 水菘ミヅナ 石菘イシナ 地ミヅリチミヅリ 虎耳草コノシ
菅スガ 蒲フ 荳マメ 菱ヒシ 河原紫胡カワノムシ 桔梗キキョウ
敗蘂クサ 輪法草リンホフ 白木シロキ 河原紫胡カワノムシ 碎米薺クサ
牽牛花クサ 鳳仙花クサ 車草クルマ ヒユリ尾ヒユリ 草履鉄クサ
カイナ草クサ 醫艸クサ 河原小豆クサ 木賊クサ 瞿麥クサ
當歸クサ 當菜クサ タカトウクサ シツキクサ 蜻蛉艸クサ

北陸

クラク 香薷クサ 牛膝ウシ 牛ノ舌ウシ 牛額ウシ
蛇麥クサ 菘菘クサ 雁皮クサ カノマクサ 螢草クサ
麥門冬クサ 春蘭クサ 三七クサ 石胡荽クサ 垣夜草クサ
一葉クサ 麻クサ 卷柏クサ トウゴクサ 天南星クサ
鳥扇クサ 夏枯草クサ 蓋クサ 百シレクサ 荻クサ
毛蓼クサ 薑草クサ 薺菜クサ ナシカツラクサ 山百合クサ
菘藿クサ 芋麻クサ 日輪草クサ 御聖草クサ 山胡麻クサ
駒瓜クサ マイ草クサ 菟麻クサ 葵クサ 晚百合クサ
徐長卿クサ 篇蓄クサ 吾木香クサ 苜蓿クサ 盜人足クサ
猪尾草クサ 藿香クサ 婆百合草クサ 山女郎クサ 鐘樓草クサ
夕靄クサ 箕車クサ 二人静クサ 山人參クサ 龍膽クサ
碓草クサ 河原木賊クサ 黃精クサ サイキクサ

乙切草	海根	ツマツカミ	マツソ	附子 <small>アトハチ</small>
カネリ	羽衣 <small>ハコロモ</small>	鬼マカラ	イラ	九階草
虎尾	茜草 <small>アカネ</small>	サシモク	藪柑子	リクス
玉簪花	草危 <small>ヒリモ</small>	シノハ	多葉萩	薔薇 <small>スミタマ</small>
石竹	縞薄 <small>シラスキ</small>	サルカキ	薄	鷄骨香 <small>キトシクサ</small>
垣根 <small>ヒ</small>	白苧 <small>アヤメ</small>	列當 <small>ツチアケヒ</small>	苜蓿	忍又 <small>ニシ</small>
凌霄花	葛	藤	高麗藤	痛猴 <small>シラネ</small>
金花	絡石 <small>シイカウラ</small>	カカツラ	狐尻	鉄線
藤手	牛芙蓉葉 <small>馬ニツハモイウ</small>	高陸 <small>アマノボク</small>	菅草	紫花
ヲバコ子リ	カバネビ	王瓜 <small>カラスウリ</small>	コモクサ	棟棠 <small>ヤマブキ</small>
百生瓢箪	マサキカツラ	蛭刺 <small>ヒルサシ</small>	雀氏 <small>キチカシ</small>	金蓮 <small>キリシキ</small>
	子生瓢箪		氣邊草	

以上ノ草之名正字不知モノ多シ詳ナルニ及ハス自是以下各可准知也

○牛馬不喰草附名

烏扇 <small>カシラキ</small>	金花 <small>コカキ</small>	牛頭	虎鬚草 <small>フキ</small>	莠 <small>アヲ</small>
牛芙蓉葉 <small>馬ニツハモイウ</small>	日出草	管草	紫苑	
藤手	牛舌草	菘草	冬葱	胡葱
葱	蒜	韭	カネビ	ハナヒ草
商陸	コモクサ	シウゲ	草薺鉄	ヲバコ子リ
蕨	紫萁	以上按スルニ牛馬クサハサル草猶此外モ有		

ヘキカ詳ナルニ及ス但シ載ル處ハ下民常ニ向ト云フニハ限ラス諸草ヲ列テ宛ルニ已レ撰出シテ食ハサルモノヲ誌ス此中ニモ馬食イ牛食ハ又牛食イ馬食ハガルモアリテ一定シカタシ

○木之名 附国名

消梨	山梨	黄檗	桑	胡桃木	楓	李	槐	楸	榎	樺	檜	檜
山梨	山梨	桃	山茶花	栞木	栗	杏	榎	榎	榎	榎	榎	榎
櫻桃	合觀木	漆	松	梅	橘	榎	榎	榎	榎	榎	榎	榎
荊棘	飯梨	百日紅	林檎木	柘	銀杏	柘	柘	柘	柘	柘	柘	柘
茱萸	犬薺	檜	桐	櫻	檜	榎	榎	榎	榎	榎	榎	榎

南天	小梨	奴柘	枳殼	牡丹	辛夷	シテ	シナ	山ホウシ	シホシ	メ木	アセビ
檀	山椒	榛	接骨木	蜀漆	檉	フヨギ	イタ木	カスウツギ	ミツ子	ニマリ	ヒトコロヒ
木瓜	木槿	木天蓼	石南花	郁李	柘	シラカンバ	ウリ	ミツクサ	ムシカリ	イボタ	バチリン
薔躑	楸	山萩	檉木	楓	ハナノ木	トロノ木	クロモシ	テホサシ	ミツキ	コメサクラ	ムネトギ
徳若	藤木	七寔	揚榎	唐榎	ヤマスミ	アラダコ	クノキ	カラクルヒ	ラカバ	ヒヨビ	ヒムロ

ユウワメ イワハセ クマヤナキ カナヅル ミヅメ ジシヤ

サルスベリ ツクム子 ウノキ シマ子リ アラモミ

ノミレバ カブラ トウノキ 子ヅミサシ ハカシヅ

ウツラ ウスゴミ マホウシ アハラダコ レシゲ

ウツメ ○竹之名 附國名 紫竹 大名竹 ス竹 ハイシツ

大竹 淡竹 苦竹 大竹

真竹 マナタケ 苦竹 紫竹 大名竹 ス竹

○食用菓實草木嫩葉類之名 并 不食園之名

葡萄 梅 桃 李 杏

山女 アケヒ 飯梨 コガシ 松子梨 山梨

小梨 榎實 榎實 榎實

棒 蔓覆盆子 桑覆盆子 栗覆盆子 熊覆盆子

栗 榧 林檎 銀杏 桑實

栗 山椒 茶菓 胡桃 榎栲

忍心 ヤマシ コノホ 海棠 茶 テホシ

○草木嫩葉類

皂角芽 枸杞芽 今迄芽 五加木葉 檀葉

木天蓼 フスマ コシセツ

○菌類

松茸 ト治 舞茸 若茸 茸茸 チヨツ

鼠茸 初茸 斗茸 榎茸 榎茸

推茸 楮茸 黄茸 針茸 握茸

木茸 モメセ シバカブリ アメゴロリ イザライ

ムクダイ ○不食園之名

○不食用菌之類

一木上治
獲腰掛

煙草

紅草

遊草

白鳥

○食用鳥之名 不食鳥類

鷄

班鳩

白鷺

鳩鵒

雁

鳧

川鳥

鴉

鷓鴣

脊黑鷓鴣

水札

鶯鷓鴣

鴉

鷓鴣

雀

鶉

鶯鷓鴣

雉子

山鷓鴣

鶯

山鳥

告天子

鶯

駒鳥

啄木鳥

鷓鴣

鳴

山雀

四十雀

中雀

鷓鴣

鶯鷓鴣

翠雀

鶯

繡眼兒

畫眉鳥

鶯

棕鳥

伊復如

鳴

鷓鴣

快鷓鴣

蒿雀

カウテウ

ノバチ

青鳩

○不食用鳥類

角鷓鴣

鷓鴣

兄鷓鴣

千七ヒヒカ

鷓鴣

黃鷓鴣

鷓鴣

鷓鴣

木鬼

梟

恆鷓鴣

燕

鳩

岳鳥

雀鳥

鷓鴣

鳥

○食用鳥之名 不食鳥類 附國名

野豬

鹿

羆羊

熊

獺

猿

鬼

狼

○不食用動物類

豺

狸

貉

狐

馬 牛 龜 犬 猫
鼯鼠 川鼠 鼯鼠 土龍 貂鼠

栗鼠 バントリヌレテ

○魚之各附國名

鯨魚 鯨魚 鮫 鮫 鮫 鮫 鮫 鮫
イナナヤカサ アブラメ アレメ ナガブ シマ 鮫

サス アカモト

○食用虫之名及不食用虫類附國名

田鼠 ツホ トウチ虫 皇蜂 青貝

蒲蘆 馬蜂 蟻 蟻 蟻 蟻 蟻 蟻

飛鼠 鳳蝶 白蝶 黃蝶 蛙
蔓 青蛙 蚯蚓 早宿蜻蛉 梅蜻蛉

紺螿 赤奴 狗蠅 促織 金鐘兒
青蠅 水蚤 狗蠅 促織 女郎虫

蜘蛛 螢 蠟牛 小豆虫
へホ ツカトヒ 螢 蠟牛 ナベタ虫

蟻 蜂 蜂 蜂 蜂 蜂 蜂 蜂
サゴシ マメ フナ フナ フナ フナ フナ フナ

蜈蚣 蟻 蟻 蟻 蟻 蟻 蟻 蟻
蜈蚣 蟻 蟻 蟻 蟻 蟻 蟻 蟻

天牛 金龜 尺蠖 班猫 蛭
天牛 金龜 尺蠖 班猫 蛭

等 等 等 等 等 等 等 等
等 等 等 等 等 等 等 等

- | | | | | |
|------|-------|------|------|-------|
| 早黒 | 七里カウシ | 野口 | 赤醬ラシ | ○小豆 |
| ダイカシ | 赤小豆 | 小豆 | 復小豆 | 平湯小豆 |
| ○角豆 | ナカサゲ | 短サゲ | ナカサゲ | トウサゲ |
| ○豌豆 | 黒豆トウ | 白豆トウ | ○蜀忠 | トウサゲ |
| トウサゲ | ○菜 | 大菜 | 蕪菜 | ウグイスナ |
| 折菜 | カエ菜 | ○大根 | 尾張大根 | 地大根 |
| ホソ大根 | 復大根 | ○芋 | 地芋 | エゴイモ |
| トウイモ | 佛掌薯 | 山薯 | 自然薯蕷 | ムカゴ |

○種藝收藏時候 先田畠花之類

本土ニ於テ總テ耕作ノ次第スル處民ノ通稱ヲノス ○苗代總名也
 ○種池是稻敷ヲ田ニ蒔ヘキ以前先水中ニヒキ置処ノ池云民家ノ
 近クニ池ヲ掘リテ水ノ湛ヘテ敷ラハ 蒔或ハ菰等ニ包ミ春ノ彼岸ニ

此池入ル也同ク土旺ヲ限リトシ取出シテ其水ヲ乾シ則チ田ニ蒔入ル也
 ○苗代田種敷ヲマキテ稻苗ヲ作ルヘキ田ヲサシテ躬ク稱セリ是其地ヲ
 撰ミテ春ノ彼岸ニ地ヲ起ス菰等カタク如クイタシ同ク土旺ニ至リニ種池
 ヨリ出シタル敷ヲマクナリ日カス五六日ヲヘテ生ヌ菰兩ニ度ニ及ブ九日程ニ至
 レバ稻苗水ニ延出ル也 ○打起春ノ土旺ヲ期トス始テ田地ヲ起スラ云フ
 引敷ヲ用エテ常用ノ敷ヲモ使フナリ ○少切打起後土ヲ細密ニスル
 ラ云 ○アラクレ巾切ノ後馬ヲ入レ乾ニテ猶土底ヲ和スル也アテクヲ
 カクト云或ハカキコナシ云也 ○塗畦アラクレ后又ヘテ田ノ畦ヲ又リ直ス
 ナリ是旧年ノ畦ハ崩レ安ク草生ヌキカ故ニ夕トハ、畦ノ幅一尺アルハ二三
 寸ツ、切崩レ新土ヲ以テ又リ直ルトセリ ○代ラカク打起ヨリ少切アラ
 クシマゼラヌリ終リテ後稻苗ヲ栽ル當日敷ヲ以テ土底ヲ和スルヲ云
 苗能ク地ニナジト云 ○栽附稻苗ヲ栽ルヲ云九月ノ節ヲ始トシ半夏ヲ

終りトセリ一郡中トイハ凡山方里方一般ナラヌ凡第一大野等ニ吉城
第三益田ト栽終レリ ○田草採栽ツケテ后凡廿余日ヲヘテ始メテ
草ヲトル一番艸ト云又十日程ヲヘテニ番草ヲトル猶三番ト云モアリ
○稻蒔場ト云早稲ハ栽テヨリ凡八十余日ニテ刈揚ルニハ彼岸ノ連
連ニヨリテ聊カクガヒアリ中稲ハ彼岸ヨリ四五日前ヲ刈始トス晚稲ハ
彼岸後十四五日ヲヘテ刈レリ ○田麥田ニ麥ヲマクハ秋ノ彼岸スキ十日
程ニシテマク也同刈揚ルハ五月ノ節ヨリ九日トノ間也其アトニハ法ノ如ク
成シテ稲ヲ栽ル也 ○畑麥蒔ト田麥ニ等シ同ク刈揚ルハ半復ヲ期トセ
リ其蒔ニハ稗或ハ野菜ヲ作レリ ○栽麥田白田ニ苗ヲ以テ栽ルル云此麥
苗ハ秋ノ彼岸ニ蒔テ十月栽ルヲ期トス刈揚ルハ田麥ニ同 ○中打總テ來多
耕作也麥ノ生シ出テ後畦ノ間ヲ打起シテ土ノ和スルヲ云 ○飯^ク飼麥ノ延レシ
タカヒテ畦ノ土ヲ和ゲ其根ニ寄ルヲ云也エヲ寄^クモ乾^クヲイタテ都テ穀ト云ヘリ

○粟稗 兩種共ニ春ノ土旺中ニマク也又四月ノ節ヲモ用ニ土地ヨリ同ク刈
揚ルハ秋ノ彼岸過ヲ期トス ○栽稗本ニ於テハ栽稗ヲ專ラトセリ苗ヲ以栽
ル也春ノ土旺中ニ蒔テ五月ノ中或ハ半復ニ栽ルヲ期トス但其苗ノ一尺計ナル
モノヲ葉ノ方ヲ五寸ホド伐捨水ニテ根ヲ洗ヒ栽也同ク刈揚ルハ常例ノ如シ
○大豆中豆 兩種共四月ノ節ニマキテ其實ヲトルハ秋ノ彼岸ヲ期トス大
此時先其葉ヲ取捨テ後ニ能乾キタルト也 ○黍 春ノ土旺ニマキ刈揚
ルハ秋ノ彼岸ヲ期トセリ ○蕎麥 夏ノ土旺ニマキ刈揚ルハ秋ノ彼岸ヲ期トス
○麻 蔴^ハ春ノ彼岸終リテ始トス刈揚ルハ夏ノ土旺ヲ限リ ○多葉粉マク
一春ノ彼岸終リテ用ニ五月ノ節ニ至ツテ 苗ヲ栽秋ノ彼岸ニ初テ毎季採ル
是テ一番葉ト云フ猶三番葉アリ ○田島之蒔類タカレ<sup>是本土ニ於テ田
トス稻ノ枝葉ヲ第一トセリ
其餘ハ何木ニモ限ラス
草タカレ<sup>草ヲ刈テ牛馬ニ踏セテ
糞トス是他州ト用シ</sup> 糞 馬糞 厩土糞
反<sup>以ヒ上ノ四品
他州ト同シ</sup> 糞槽 溜桶 糞桶<sup>以上ノ三品
他州ト同シ</sup></sup>

○米穀舂汰之用具

本土に於て凡て舂法之要器古来六品也其餘近世造り用ルモノ也各
名目ヲ出ス猶諸雜部農具之條下ニ載ス 搗臼 コイビ 轉木磨
箕 ケンドシ 淘汰輪 以上六品ハ
古来ノ用具也 礮 イナコキ 梘把 扇米風車 颯風飛 當
木カラハシ 以上ノ六品ハ
近世造り出ス

○一夫所耕之大數

本土に於て下民一人トシテ年中耕作スル處ノ久限凡田畠平均シテ三五畝
程ノ限リカト地ヨリ或ハ作出ス品モヨリ定ル格ニアラ子ト大者カクノ也

○害五穀菜蔬虫類附於菜穀稱病類

本土に於て田畠ニ生スル處ノ虫類菜穀ヲ害スルモノ其品甚トイヘ生スル
所ノ事實未分明故ニ今見聞ノ大旨ヲ載ス ○蝗蟲 稻ニ生スル虫也
此州ニ於てハ第一ノ惡虫トス凡其虫ノ状ハ他州ノ菜虫ニ似テ色青シ頂ニ

黒キ也アリ

長五分ヨリ一
寸五分ニ至ル

是稻苗ヲ食テ後土旺ノ明ル頃ヨリ出生セリ 早稻
生スル

稀也中稀晩稀
ニ至リテ生スル也

此虫雌雄アルニハ非ス窠中ニ出ニツ營リ居リ日ノ照ル
片ハ隱レ日没或ハ曇リタル氏甚ク窠中ヲ蔽テテ日夜ノ差別ナク稻葉

ヲ食イ黒キ糞ヲ成セリ 稻葉ヲ食盡シテ後ハ其ホトリノ大中小ノ葉其蘇
州木ノ葉ヲモ食フ也 ○蠶虫 是蝗虫ノ死シテ変生スル者也別種ヨリ出

生スルニハ非ス其板ハ葉虫ニ似テ色赤黒也 長三分ヨリ
七分ニ至ル 然ルニ此虫稻ノ葉ヲ

モ食ハス生シ出ルヨリ彼ノ蝗虫ヲ食ヘリ其食イ殺テ甚疾クテコウノウ稻
葉ヲ食フヨリモ速也 是食イ殺スルニヨリ割シ殺スル
ニ至リ腹スルニ非ラハナリ 此サシ虫ハ蝗虫ノ死シタル其肉

ヨリ生スルトイヘトモ甚事實ニ於テハ未詳サシ虫生スルニ及ベハ日ヲ經ス
シテ蝗虫タル絶スレハサシ虫モ忽チ死シテ絶畢ヌ 按スルニ蝗虫ノ生ス

ル下ハ氣候ト其地理ニヨレルカ州ニ於テ四方ニテケス地境狭ク北方ニ
山近ク覆ヒタル地ハ不正ノ氣候ニ遭フトイヘハ蝗虫ノ生スルヲマレナリ

是等山言ト 又四方開キテ分内廣ク北方山遠ク北風ヲ請ル地ニ於テ
挿スノ地ナリ 是等里言ト 備ノ国府
不正ノ氣候ニ遭ヘハ蝗虫生シ安ク然モ制止及ヒ難シ 是等里言ト 備ノ国府
是盛夏ニ田ノ水サナカラ温陽ノ如ク熱テ縮ノ葉モ黒ミ口タルハカリニ
增長シ蒼ク催シ穂ヲムスントスルニ至ルヲ俄ニ暑氣弱リモカモ雨降
或ハ照リ或ハ曇リ北風吹交リ如此ノ冷氣ニ遭ハハ縮葉ノ露乾
クハギキナク田ノ水晝夜冷カ也此時ニ至リテ自然ト中真ニ守ルヘキ
モノ臆テ縮ノ葉自然ト子バリー白キ蜘蛛ノ糸ノ如キモノ葉ヲ卷カラタリ
其中ニ葉ヲ造リテ出生ス其葉ヲ卷カラタトスルニ日ヲハスシテ田面ノ
アル限りハ忽チ縮タルガ如シ是虫ノ口ヨリ糸ヲ吐出シアチタコナク葉
ヲマトウク蚕ノ繭ヲ造ルニ等シ然ルニ不正ノ露雨晴朗ニ復シ暑者天
焔々ナレハ蝗虫出カ晝ニ悉ク葉中ニ死セリ或ハ其死虫ヨリ蟄虫生シテ
蝗虫ヲ殺セリ以上ヲ虫甘ノ損トモ云フ也其時民ノ此ハ災ヲ降カトテハ

由送リトイフヲ致シ猶神佛ニ祈リ加持スルト勿論也其際是ヲ防ク
ニ岳多トイハレ所詮天氣ノ快明ニ非サレハ防キタタシタトハ其初メハ
老若ノ男女其田ニ入り稻ノ葉ヲ分ケ見テ葉ト成ヘキ葉ヲ折テ取
ナリ或ハ竹ヲワリ擲ノ當ノ如キモノヲ造リ稻ノ葉ヲ透シ通セリ或ハ
地ノ隈リアルヲハ縮ヲ刈採ツテ燻焙ルモアリ 猶其生シテ後ハ男女共
ニ腰ニ簀ヲ携ユ田ニ入テ葉中ニ籠ル所ノ出ラエラニ採テ指ニ其頂
ヲ挫キ簀ニ収メリ此時虫ヨリ黄水出ルニ其臭氣ノ甚キヲタフルニ
物ナシ是ニアタリ名族ハ必腹痛シ或ハ酒ニ酔タルガ地トイヘリ黄水
ニハ人ノ爪指ノ皮迄モ皆黄ニ染ル也 本朝語園曰ニ代實録曰負
親十六年八月朔日伊勢国上言蝗虫アリテ稻ヲ食フ其類希クシテ
丹ノ如シ背青ク腹マダラシテ大キナル者ハ一寸五分ナルモノ一寸種類
多ク集リ一日ニ食フ野四五所ばかり其過ル所遺糞アルヲナシ是ニ因

テ同月十三日玄蕃頭弘道王ヲ伊勢太神宮へツカハサレ幣ヲ奉リ
定光ヲサラシテ祈ル是ヨリ已後蝗虫或ハ蝶ト化シ或ハ蜂ノ為ニ
整殺サレテ一時ニ悉ク益以テ凡蝗虫ノ外ニハ本土或テ国郡ノ損亡
ニ及フ虫附ナシトイフ自是以下ニ載ル處ノ虫或ハ病ト稱スルモ可唯
知之○泥虫稻ニ生ズル如ク也色黒ク長ニ三分計リノ虫タリ稻
草ヲ食フニハ非ス甚々痛トテ整セス○ウシカ虫稻ニ生ズル虫也此未
分明村老云ク蚊ヨリモ至ツテ少クニテ種ノ如ク此州ニ生スルト甚々
稀ナリ是海ナキカ故トモイヘリ○根虫稻ノ根ニ白キ糸ノ如キモノ生マ
リ病ノ類カ○立枯^{稻草不晴ニカルナリ}青立^{終リニテ青ク其實整セス}以上二品病也各風水
旱損早霜等ニ遭タル類此損チアリ又常ニ冷水ノ涌出ル山間ノ田地
ニハ間此ワツライアルト也○ワグバ大木交ニ生スル病也麥ノ葉ニ黒キ
細粉ノ如キモノ生セリ其麥枯ル實ヲ結ヒテモ棄シ難シ○桿根虫

其根或ハ茎或ハ節ニ生ス虫ノ状分明ナラヌ其木自然ト枯リ病ノ類
也○青虫金虫比丘尼虫イモ子虫^{或佃虫}以上四品葉ニ生スル虫也他州ト
同○舞^マ是茄子多葉病ニ生スル病也無謂其枝葉ノ枯ルト也
タココ其葉枯死如シを飲用スルニ及ハス又横州服部ノ産ニ舞留
舞葉ト稱スルモノアリ曾テ其類ニハアラサルナリ

○水碓磨

本土ニ於テ大野郡高山国府ニアリ宮川ヲ分水シテ是ヲ造ル米穀ヲ
春テ他州ト同

○橋梁之製

本土ニ橋梁ハ溪澗ノ急流ニアリ故ニ激水ノ為ニ破ラレ煩ヒアルヨリ橋
杭ヲ用ルル稀也多クハ棧道ニ造レリ凡テハシノ号アルモノヲ載ス其作
用ヲ記ス○棧道^{カヤハシ}是ヲ造ルハ先橋杭ノ如キ大木ヲ以テ其木ノ半ハ

岸ノ土中ニ埋メ半ハ河ニサシ出セリ是ヲ第一ノハ子木ト云フ数ハ橋ノ長短廣狭ニ随フテ二本ヨリ三四五本ニモ及ヒ一面ニ並ヘリ此ハ子木河ニサシ出ス処ニ向出ルハ地中ニハ三間余蔽ムル也其岸ヲハ石垣ヲ用イサテ造リ石ヲツメテ堅固ニイタスヲ橋臺ト云フ如此兩岸ヨリ出ス野ノ両子木ノ上ニ橋折ヲ引直シ其鋪板欄干等ノ用材ヲ備フルテ常例ノ如シ猶長橋ニ至テハ兩岸ノハ子木ニ重モ三重モ有テ其継目毎ヲハ鉄ヲ以テ巻カケル也俗ハ子橋ト云リ ○引渡橋 丸木橋一本橋皆一烈也是造ルハ圓木ヲ面ヲ少ク削リテ打ワタルモノ也故ニ川幅二三間ヨリ四五間ニ至リ過十間二十余間ナルモノアリ此等ハ川ノ中央ニ枅ヲ建テ是ニ直シカケテニ繼トス仍テ木數モ二本或ハ三本ヲ並ヘテ幅トスル也 ○藤橋 是ヲ造ルハミラリケ狛猴口藤トイフ太キ藤ヲ幾筋モ結ヒ延テ網ト成シ兩岸ニ張身山石ニ結ヒ固ム号シテワミ踏藤ト云フ又

同シ藤網ヲ其丸右ニハル手網藤トイフ是橋ノ欄干ニ比セリ如此ノ用意網ニテ後雜木ヲ伐テ打割踏藤ノ上ニ並ヘテ藤ヲ以テ覆フ子ノ如ク織付テ鋪板ノ代リトス号シ踏木トイヘリ其長橋ニ至テハ凡テ甕ナルモノアリ是等ハ踏藤緩ミ延テ佗邦ノ人且シハ足下夏動揺シテ曾テ進ミ得カレ也其地ノ人ニハ老若男女共ニ自在ノ通用路トモ古今ニ至ルカ毎歲アラタニ造ル事也 ○網橋 一名籠澤ト号ス是溪深ク岩石高クニテ鉉モ用ヒ難ク棧道ヲ造ルハ材力不及故昔ヨリ是ヲ用未レルモノ也是ヲ造ルハ先ツ太キ草細ヲ両山岸ニ張直シ山石ニ結ヒ固メテ命網ト云獨狛口藤ヲ以テ柱藤ヲ四筋立テ其下ニ人ノ入ルヘキ程ノ篋ヲ造リ附テ命網ニ懸其篋ノ前後ニ網ヲ二筋附テ兩岸ニ引ハリテ引網トセリ是ヲワタルハ篋中ニ立テ彼柱藤ヲ丸右ニカイコミソノ身ヲ固ム引網ヲ役スル民並テ兩岸ニ居住シ網ヲ引テ通行スル也又

其地ノ民ハ已鼈中ニ居テカラ引網ヲモ手操テ渡リ或ハ鼈モ入
ラズ命網ニ脚ヲカラミ手操テワタルモアリ其業サナガラ翅アルカ如シ
凡長止余間ハ余向ナルモノアリ命網モ常ニ緩ミテ人ワタル岸ヨリ
川ノ半迄ハ其走ルノ箭ヲ放ツニ似タリ又向フノ岸ニ至ルハ是ニ異リ
テ漸々ト引揚ル也乘ル人其鼈中ニ苦シモ魂ヲ消ト可謂鼈ノワタルハ
歌ニモ加賀ノ白山ニヨメリトナシ

温泉

○大洞温泉

益田郡小坂御湯屋村字大洞ニアリ舊稱小坂温泉是也按スル本土
温泉涌出ノ地多シ其土地ニヨリテ各冷温荒凉アリトイヘ氏總テ濕瘴ヲ身
痔疾痲病瘡毒疔氣金瘡等ヲ專治セリトコエリ自是以下可推知之
○小坂靈湯記

夫物者雖非無廢續絶見義而不為怠而不勤猶遠之遠則必至于忘矢也
故古刻石鐫金而傳其紀事於不朽矣今于是此靈湯之起本者天文年中
右奥田孫左衛門治命者生濃州稻葉山城邑長弓馬之家世業武事然前
弱冠之頃不幸痲病犯身疼痛苦心依茲雖益藥方医術求救療更無得愈
驗也於是信醫王善述之卷願晨昏不絕唱彼室号仰一經其耳衆病悉除
之願文編奉持大悲救護也或夜夢一高僧告曰從是東之方山澗幽邃之
間百桃林其處涌出靈湯汝宜尋行而探決靈湯浴身服口必病腦回春其
心共輕安矣夢覺而感喜悅伏桃林為其的當之揭尋覓遠近終不得其
依身疲心佚快之而上共志矣治命從來搏今世雖狹暴虎凌雲之勇病
身不任畜懷無如之何也當國領主三木久庵尊丈者寬仁不忘之人能
容士不捨物之健將也治命病衰憊如是遣使介召當國矣治命徒任此
小坂村大洞眺祝乱世之浮沉行感慨吾天性如此矣治命移于大洞也實

天文十年辛丑之二月也此年季春初三追憶會誓宴樂誘引居民一兩
輩吟溪水遊山澗居民曰此谷謂桃源於是治命園徃昔柏葉山之瑞夢
感發赤寸直到而見洞水之岸頭有數株桃鮮花爛漫芬芳郁之搜索其
岸畔的然湧出靈湯清潔玉如走盤瑋之髓而其聲如新似私語治命
一掬而試曰裏含靈靈靈氣始熟五味風致宛似嫩甘蔗漸入佳境也全
體輕安心氣忽快悅爾來流聞遠近鄉里而湯治病容未集人洞公澤浴
或溫眼隨神得痊頓骨復本無曰應病不驗也觀夫古人欲採藥適入天
台沂羅水遠行數里有二先翁語曰之桃源即神仙之靈樓也是而三月
彎日而入桃源則記而以足為徵矣曹暉于詩寄騷人曲水濫觴桃李芳
園作文獻詩况於躍三級之波搖尾鯨鱗莫化大龍乎後漢不異其日齊
其趣者抑又有由哉挑者挺出千許萬木非几庸之樹矣蟠桃盛于枝桑
也玉桃杏碧山也是佺仙屈之美產而可非人間所有靈木也且又剪枝

削符於拔攘疾疫邪祟乎故靈雲見開花宛頓悟王母敬乎佳實爾晚
成加補興于詘著于書雜出唐律和歌而久之秦之靈德更不暇枚舉也
原者與源通而同訓水本字形自下之泉也泉訓話雖不一再而絕續出水
然則此靈湯之復稱其奇瑞也、不虛芳名者也此名也自古呼赤而
何代其人不知安着焉蓋神世之初少帝彥名命與大已貴命衰愍季
世蒼生湧出溫湯靈水於刃境僻地救濟衆病百病也且哉桃源之字
此二神之金口流出而至十萬歲之今為不埋之稱号者何疑有之治命痛
豈信犬悲加被不虛追得瑠璃光之小像安宅中且暮奉侍香花信仰
飯依無懈也歷數年有旅人寄宿一兩夕不意掠盜此尊像去也治命千
悔難惜為奈之何哉再欲覓尊影而飛驒山中陝隘巖峻之境容易
不得其巧祈殘念醫今至于今日也感應合浦珠還時到豐城劍現况
靈像隱顯於妙應無方乎治命若信心不棄悲願不損尊形未格可

討日待也治命記如上侍以欲遺永不忘矣近頃來井口里訪親族因爲
予需之記喜治命勇義勤不怠不克因輝筆錄焉不盡珍重 維時
永祿二己未歲仲夏初八日實金華山下多田律師源善行誌 撰スルニ善
行表由未詳金華山ハ濃州岐阜ニアリ

○和佐温泉

同郡下呂郷和佐村ニアリ未申未詳

○下呂温泉

同郡同郷湯島村ニアリ本朝上古ノ温泉三處アリ所謂其州有馬野州
草津飛州湯島是也因説曰天曆年中此地ノ山中ニ初テ温泉湧出
セリ地名ヲ湯峯トスフ然レニ文永二年乙丑冬十月湯峯ノ温泉止
テ山下今テノ地ニ湧出セリ是則益田川ノ河原ニテ常ニ温泉ノ涌出ルニ
テハナシ人俗セトスルキ河原ノ砂石ヲ除キテ僅ニクボメヌハ其所以也

千温泉出ル也也清泉タリ猶其河水ニ近ク其熱湯也然レ其河水
ニ於テハ曾テ温泉ノ氣味ナシ又此地ニ温泉薬師ト稱スル靈像アリ口傳
ニ傳アル處文永年中温泉此地ニ涌出セシ其湯之嶋ニ於テ先アリ村民ア
ヤシキ其光明ヲ尋テ行テ見ルニ薬師ノ尊像ヲ得タリ故ニ一字ノ軒堂ニ安
置テ温泉薬師ト稱セリ然レニ寛文年中同郡荻原郷中呂村竜澤
山禪昌禪寺第八世剛山祖金和高此地ニ於テ一寺ヲ建立シテ彼ノ靈佛
ヲ安置ス 医王山温泉禪寺ト稱セリ ○羅山先生詩集卷第三曰 紀行
南行日歸元和辛酉 有馬山温泉 温泉瀉沸石盤間病可除今垢可刪這
裏提醒長水子本然清淨忽生山 我國諸州多有湯泉其最著者其
津之有馬下野之州津飛驒之湯嶋此三處也下略 今有馬草津ハ廣ク
世ノ知ル處也湯島ハ古來ノ靈湯タルヲ遠ク知ル者少シトイハ元入湯スル人ハ
其鏡ヲ得タルヲナシトナリ

○宮溫泉

大野郡久々野郷宮村ノ山澗ニアリ冷泉ナリ浴スルモノ汲テ沸用ニ赫軸

○浦田溫泉

吉城郡高原郷神坂村字浦田ニアリ往古涌出ニ由テ志詳

○浦田溫泉記

飛州高倉郡浦田之溫泉者未詳其詳也世傳天正年中東濃邊徼之下民罹乎膠固之沉疾歷十餘歲百方不應厥子不堪憂恤一夕祈藥師之靈像求冥助矣忽夢有一老翁語曰乃父宿病儲未尚矣而乃孝心我豈忍棄廢乎哉去郡三十里飛州之東境有溫泉宜急促裝焉且又書曰上生浦四字以授與之冀子覺而感憐於焉襁負老父來問溫泉之所在又亦夢中之識里人感言去城都十里許有浦田者與夢中之名詮偶以昭合不知有溫泉乎石試往焉厥子喜趨幸富高

峙洞水出深山繞途窮唯見瘴遊鬼茲悲惶彷徨不知所為忽問曰覓老翁坐石上旁諭曰此下石巖之間有溫泉百疾可瘳也我藥師應現感乃篤孝純志之誠言已度空而去於是披其蒙茸刈其蕪穢而探石石階溫泉甃沸既而洗一七日精神煥發二七日身體通健三十七日多事痼疾洞乎若脫矣厥後有荷於久病深疾而未浴則溫泉之傍營丈尺之媿屋使病人棲止於其中課令見之固運施金鑿般孟之器也及慶長之運也今見之老農夢溫泉旁有夜光現藥師之像里人怪而窺焉宛然如夢中可覓里人香議命壯者拔其柞檄夷其茅葑移于今見舊屋三四家居焉蓋報夢中之靈詭且厥為浴者運送器物之妄彈人力故也於是公候士庶翻然感其靈應靡然信其奇驗其風溫者寒冷者暑者聾者瘖者痿痺者冷痲者遍身麻痺者骨節酸疼者或有纏縷或息杖藍輿累踵摩肩雲集麇至

於是我邦 君世之賜子浴也今茲延寶丁巳夏五月因母之患臂痛
而未及于浹旬疾苦漸痊灌浴之暇挽蒸緩步漱清流釣四瀉沂流
岩穴之間熱湯涌出熱而不可觸土人名地獄目疾可治也又波百步有
熱地里掃埋草麻而蒸熟治流半里餘有民家名中尾若夫縱目騁情
當其正東峻嶒戴千秋雪者第嶽也出東北者錫杖岳也跨東南者硫
黃嶽也暮烟連千下流者椽尾神坂之民家也斯地也四麓皆山而陰
雨常多天日常少及其山色漉濛烟靄籠一川千峯萬岳倏忽不見
如巨海之無際涯廣衍之無限量也偶有庵眉丈人懸用於石壁之間
揖余曰自古溫泉百冷熱之別請為我言之曰夫溫湯者硫黃之氣薰
惹使水熱而已硫黃之性大熱有毒能治風毒疥癬疔風諸君之屬若
夫氣體羸備心之人不徒無益又且害之本性所載李氏之說如此史何之冷
湯之有間或一經半溫半冷者或山靈所使者其又不証而已大抵石冷

湯者人惡其酷熱故以篋取水或灌漑之瀦水或雨餘之瀦滄適有以交
者夫溫湯之性使人腹痛嘔噦而已浴者亮諸 按之此飛州、隱士園
嘯軒守株子誌又悉十

○平湯溫泉

同郡同鄉平湯村ニあり 往古毒由未詳

○平湯溫泉記

環溫泉皆山也又有急峻激湍屈曲盤旋於兩峰之間也其正南鬱葱
高秀者騎鞍也北嶺峻峭含千秋雪者錫嶺也民居八九家列布而足月
字其俗或見鶯奴無辨男女唯異姻於應對也溫室在郭東百步頃矣
檜杙蕭森古祠傾側者醫王善迹也曩祖尾陽豐族次村老舍其家一
女艷容乃聘以婦期手之後翁媪相携遠投婿家高門深宮終日而
不得相見嗚咽而還其女鑄醫王金像遙送父母曰象山遠望日辰昏

無供若欲見我惟像惟省父母感泣幸嘗神宇於溫泉之旁安置此像
現今尚在焉歲月蔓延信州神正陔涉到此乃假義祠白巖以摩精幣
惟奉金音鈴之羅彩翩之忽驚叫而斃里人遽往數之一身無瘢古
無復有矣噫其神靈譴怒乎抑且山鬼所使乎可謂奇異矣中古北
越管領甲陽武公龍虎吞怒鵲蚌相窺之日吾邦東郡多屬管領矣
武公輒使山懸某為上將侵奪焉上將受鐵化于此霜餐露宿備嘗
峻岨毒霧射人蒸溫侵肌士卒多手足頑痺而不能荷戈而疾走將士
徬徨不知所為矣會者一老白猿盤踞而浴軍士皆怪者焉移時跳梁
而去眾知其為靈泉而競浴即日精神盎然身體壯健而能握兵器
上馬矣自南以降遐邇相告都鄙傳呼於是輿病抱恙者車駕相衝
人肩相摩乃畏懼擢恐敢後其久年風濕者骨節酸疼者腰脚冷痺
者手足疥癬者周身瘡疹者下焦虛冷小水頻數者或丈夫癩疔女子

血刺及楊梅及花毒瘡損傷打撲瘀血停滯者益無不驗矣或曰凡熱湯治
寒症理固然夫諸瘡痛痒皆屬熱豈熱湯之可宜乎曰寒冷以溫熱名曰
及治是醫門之經常也病勢轉深者以熱治熱以寒治寒各從其類名
曰從治是杏林之權法也溫湯之治諸瘡痛痒何其不可也大醫洗浴
之法日不過兩三回而日數多實力復從病之淺深也其間宜戒食淡味而
戒色寡慾慎勿暴怒勞力而耗神傷真矣貪多者日夜十有餘回汗
多漏洩一身之陽氣多致衰弱者間或有之下流數百步有溫泉石
落合能治頭痛及支節損傷氣逆衝上者其岩穴逆出者為山伏湯
服之降百般心氣河邊瀉出者為腰也治中風通體麻痺不仁者近遭
鴻水襄陵之變今不復有也蒼烟連空金山也其精鑿等鞭前南金今
復無多負觀往時之盛千百而一二也又有一條瀑布高懸蒼崖飛流直
下三十尺龍綃數丈晚機輕飄若不盡峰別派定知龍門支流可謂

邊地之壯觀也斯地也陰氣偏勝寒冷發行霜雪先墜五穀不熟桑
麻無長唯有一種播種而已播種之時多得溫湯水灌溉於阡畝之際
不然則失於秋獲意余嘗聞溫泉能治患之人之宿病亦有救生民之饑
腸若此溫泉無有矣驪山靈泉高則高矣然有妃子洗凝脂之謂也
有馬神湯美則美矣還為公子華族遊覽之媒也然則此湯之高而
美豈翅百十倍蓰也哉昔志心在其僻陋荒遠而人以忽焉故粗記一二

以傳云爾

以上未詳疑ヲハ

補云貞亨二年陽月上晦日書字抹子

晚食自是此第結婚姪朱陳兩姓長兒源溫泉靈水沸騰磐石除心身痼疾神仙
靜居終日洗塵愿不独况病復脫然瀑布溫泉一瓜界青山寺練飄飛峭壁間元是廣
寒殿中物娉好麻落產裏騎鞍據美天馬周航日化作嶋峯第一峯重氣隆之應雲
卷到今神委會靈殿

飛州志卷第一終

附錄共拾卷之內

十之十
茂木

